

令和 8 年度第 1 回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

1 開催日時 令和 8 年 6 月 5 日(金)15:00～17:10

2 場所 東北森林管理局 2 階 大会議室

3 出席者 栗本委員、小野寺委員、鈴木委員、守屋委員、大坂委員、児玉委員、安部委員

4 検討結果

雪解けが進み、合板・製材工場のスギ原木の入荷量は徐々に回復してきているが、原木価格は保合の状況である。カラマツ原木及び製紙用原木は不足していることから高水準で推移している。

また、原木輸出入は、円安・世界景気の悪化により減少している。

製材品については、消費地における羽柄材やスギ集成管柱は輸入材の代替え需要が進み堅調であるが、値上げは小幅にとどまっている。中東情勢の影響により、燃料代、運賃の値上がりなどにより価格が強含みの状況である一方、塗料や接着剤等の資材不足が製造業全体に広がっており、製材品の出荷量の変化を見通せない状況である。

今後も、国内の新設住宅需要に回復の兆しは見えず、むしろ先細りが懸念される。そのため、利用期を迎えている森林から供給される木材の利用先として、非住宅建築物の木造への転換や木質内装化、家具、土木資材等への活用など、川下での利用拡大が急務となっている。

このように、木材の需給動向の先行きは依然として不透明であり、引き続き、木材利用の拡大、各製材工場等における原木集荷、製品生産・出荷状況や、原木輸出入の動向、国内外の情勢などを注視する必要があると思われる。

以上のことから、国有林に対しては、「現時点において国有林材の供給調整は必要ないが、引き続き各地域の原木・製材品の需給動向や民有林の状況を注視し、安定供給を継続するよう求める。」と報告する。

5 主な意見

○ 製材用スギ原木は 2 月中旬以降入荷が増加し、在庫も約 1.5 か月分まで回復するなど安定化が進んでおり、燃料用原木も増加傾向にある。集成材の販売量は前年をやや上回る水準を維持している。一方で製品価格は 5 月以降改善（値上がり）したものの、過去の不採算を十分には解消できておらず、接着剤についても供給不足解消には至っていない。価格上昇が続き、調達量次第で今後の出荷動向は不透明である。また、需要面では割高な国産カラマツ集成材から割安な米松 KD 材へのシフトが進み、国産カラマツ集成材の出番は当面限定的と見込まれる。こうした中、3.65m のスギ原木の受入れを開始し、地域の一般製材所における A 材不足の解消に繋がることを期待している。

- 中東情勢の影響により需給の先行きは不透明であり、集成材は輸入材依存が高く国産材への代替余地がある一方、合板は住宅向けに生産が偏っている。用材需給が不安定な場合にはバイオマス・製紙用途の不足も懸念される。価格面では石油関連製品の値上げに伴うコスト増が続く中、製品価格が上昇しなければ素材価格は横ばいにとどまり、燃料費高騰により素材生産や工場経営は厳しさを増す可能性がある。流通や輸出入についても円安や世界景気の減速等で不透明感が強い。

政策面では公共分野での木材利用拡大や自治体への働きかけ強化が重要であり、CO2 固定評価制度による民間需要、オフィス家具需要、木杭需要拡大に繋がることを期待する。

Ｄ材土場販売の全国的開始（他局はスタート済）東北局も早めに対応して欲しい。

- 住宅着工数の減少により製品出荷は厳しくなる可能性があり、需給の先行きは厳しい状況にある。価格面では、素材価格は出材状況による影響を受けつつも大きな変動はない一方、合板では住宅需要低迷により荷動きは鈍かったものの、中東情勢の悪化に伴う接着剤など化学製品の供給不安から仮需が発生し在庫は減少傾向となっている。また、供給不透明感を背景に流通では調達優先の動きが強まり、価格は強基調で推移している。

西日本の合板メーカーでは、中東情勢悪化の影響により生産調整の拡大など既に表面化しており、現状は製品販売に慎重姿勢が強い。一方、需要環境は決して改善している状況になく、ナフサ不足に起因する建材や住設機器の供給制限が続けば、住宅販売価格の上昇や現場の施工遅延を招き、今後は合板市況に影響を及ぼす可能性も懸念される。

- 輸送費の関係で、東京までの距離を比較すると、九州より東北の方が安いのではないかとこのことで首都圏への出荷が増えている。燃料の高騰により九州から入ってきていたものが、価格が合わなくなってきたことから、東北への発注が増加している状況である。

ナラ枯れ材を床材に使用する方向で動いている。パーティクルボードの値上げや出荷の可否があり、水回りメーカーを通じベトナムから輸入を試みている。

- 山形県内では大手製材工場の価格引上げにより一般製材は比較的安定した需要を確保している一方、中小工場では地元住宅の需要が鈍いため、当用買いに留まり需要は伸びていない。集成材工場は大手ハウスメーカー向けに一定の生産量を維持しているが、バイオマス向け原料は需要が伸びる中で集荷が難航している。

原油供給不安により、塗料や接着剤、水回りの業界に影響している。見積もり金額も明示しない納入ベースの価格になるなど、金額も確定できず悪質な対応が多く建設現場が止まっている状況にある。羽柄材の供給力が不足していると感じており、人的な要因で増産できない状況に危機感を持っている。